日本クリスチャン・アシュラム連盟

イエスは主なり

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリスト教の新しい祈祷運動である。

開心・静聴・充満・献身・奉仕　143号

イエスは実に復活された。

若林　節子

私が、始めてスタンレー師に出会ったのは、1964年４月９日西宮市にある聖和女子大学にて、アシュラムが行われていた時でした。その時に私の印象深い思い出は次の光景です。アシュラムのプログラムにある労仂の時間30分ぐらいですが、会場が女子大の校舎でした。その時にスタンレー師は窓ガラスを拭いておられました。女子大の学長が「先生そんなことまでなされなくても」と。その時スタンレー師は、にこやかに「これはアシュラムのなすべきつとめなのです。」とおっしゃったのです。私は、この光景を忘れることができません。

２回目は、'67年河内長野でのアシュラムでした。私が休憩時間で廊下に立っていた時でした。スタンレー師は、私に不断の祈りをしなさいとおっしゃいました。このおすすめが、私の心に深く届いて、それ以来アシュラムの中心である祈りの姿勢が定まりました。この時間は、神との対話、あるいは神からのみことばが頂けるからです。

スタンレー師は千里山シオンロッジでのアシュラムの祈りで私に残して下さった事として、新約聖書全編で「神は愛である」（Ⅰヨハネ４の８,16）が中心の聖句であると教えて下さいました。これはスタンレー師の最後の教えとなった３回目の時でした。尼僧からキリスト教への信仰告白を不断の祈りの部屋でノートに書きました。

私が、仏教からキリスト教へ転身出来た唯一の証明となる聖句はコリントの信徒への手紙一章12節です。キリストは死者の中から復活した。「死者の復活」「復活の体」（44節）つまり、自然の命の体があるのですから、霊の体もあるとの教えです。これは仏教には無い御言葉です。肉体の死は仏教では住生と言いそれで終わりにしますが、死者の復活はキリスト教の唯一の教えであります。この信仰こそ確かな信じることの出来る霊的真理です。

宗教は人間の生き方を教えます。変転きわまりない世の中を人として正しくあることは望みであり願うところの信仰です。それ故に心の平安と人間としての平和の生涯を望みます。信仰する者の唯一の願いは精神の安定であり心から安らかに生きることが出来ることです。

（富山アシュラム委員）

霊想

渇くことのない水

青梅教会牧師
有馬　歳弘

「しかし、サマリアを通らねばならなかった」(5)。主イエスの行動の必然は、一人の女との出会いのためであったと思えるほどです。アウグスチヌスはこう言っています。「イエスが旅で疲労されたのはあなたのためである。…キリストの強さはあなたを創造し、キリストの弱さはあなたを再創造したのである。キリストの強さは存在しなかったものを存在させ、その弱さは存在したものを滅びないようにさせた。キリストはその強さによってわれわれを創造し、その弱さによってわれわれを探し求められたのである」と。

主イエスは旅の疲れにおいて、一人の女が持っている渇きを見抜いておられました。私たちもまたその主に出会うのです。主の日の礼拝は主ご自身が「通らねばならない」と決めてくださったところなのです。そこで私たちの渇きを癒していただきましょう。

この女が来たのは「正午」でした。他の女たちの目を避けてのことであったようです。主イエスはこの女の問題を見抜いておられました。「この水を飲む者はだれでもまた渇く。しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る」と導かれました。

彼女は五人の夫と別れ、今も夫と言えない者と生活しながら渇きを経験しています。何故そうなるのか。アウグスチヌスはここをこう説明します。五人の夫とは、人間の五感に譬えられる。聞く、見る、嗅ぐ、味わう、触る感覚だと。この女か、或いは相手の事情によるかわかりませんが、関係が続きません。頭の良い人を求めたがやがて自分の頭の悪さに失望します。金持ちなら自分も金持ちになれると一緒になりますが、相手の人格に失望します。美男子は他の女性の目が心配で嫉妬心が邪魔をします。強い男性は、粗忽です。優しい男性はやがて頼りなくなってきます。どれも、一時的満足、渇きを満たしますが、続きません。

家内安全、商売繁盛、無病息災、健康長寿、夫婦円満といったご利益は、キリスト者にも与えられます。しかし、それは結果としての恵みです。結果を求めるのが信仰だと考えると誤りです。自己の欲望や、自己実現は、やがて渇きに襲われます。金儲け、名誉、有名校に合格は嬉しいことです。しかし、それは水ですがバケツの中の水みたいです。やがて濁り、腐敗さえして命を失います。

主イエスはいつまでも渇かない水を与えようと欲しておられます。この水は生きた水です。生きた水とは、「川」とか「流れ」のことです。溜め置きの水ではなくて、川とは動いているものです。川は流れている間に、飲料用、灌漑用、清掃用等の水を提供します。しかし、「川」と「水」とは同じではありません。飲料水は水です。灌漑用水、清掃用水も水です。満足をもたらしますが、しかしいつまでもではありません。一切を神様に委ねて、自分の願望の実現よりも、御心に適うことを優先して祈りつつ日を過ごしている者に結果が出てくるのは当然かもしれません。信仰者になって人が変わった。救われて経験する内的変化は驚くべき結果を与えてくれます。

しかし、それは主イエスとの生きた交わりに入った人の中に起こった変革、新しい命による生活革命による結果です。その恵み、結果を見て信仰だとするのは、誤りです。サマリアの女は、このことを勘違いしていました。自分の願望の薬を求めて一所懸命でしたが、神様との霊的交わりの中「流れる川」に生きることを知りませんでした。ひょっとすると、キリスト者も勘違いしている恐れがあります。

詩編第一編に「このような人は流れのほとりに植えられた木」の、時が来ると実を結び、その葉もしぼまないように、そのなすところは皆栄える」とあります。結果として「実を結ぶ」ことが約束されています。注意しなければならないのは、「流れのほとりに植えられた木」ということです。「生きた水」を飲むとは、神様との生きた交わり、主イエス様との対話、み言葉の静聴のなかに生きて行くことではないでしょうか。そこから尽きない泉が湧いてきます。信仰者を滅びない存在へと呼び寄せるために主イエスは、通らねばならないところと定めて私に出会ってくださいます。

立　証

第三十七回城北アシュラムに出席して

池の上キリスト教会　真鍋　功

今迄の私の歩み、思考パターンから見て、奇蹟かと思われる様な動機、お招きにより一九九九年初めに洗礼を受けさせて頂きました。洗礼を受けて以来の、足どりは全く遅いものでありますが、毎日聖書を読み、毎週教会の礼拝に出席し、池の上教会のバイブル、スタディにも加えて頂き、学びつつ歩んでおります。

世の中には、本当にいろいろな事があります。しかし、心静かに、神が導かれようとしていることを考えていると、非常に我慢強く、長期なスパーンで、誰もが納得出来る経過で、目に見えない神の手により、ことをなしておられるとの思いを強く祈ります。

十戒、二つの偉大な命令、山上の垂訓、福音書等が若干理解が出来て参りますと、キリストの十字架と復活が大きな恵みと神の愛であることについて、自然に、主に深く感謝する気持ちになります。

今迄のアシュラムには、心の全てを神に開け渡して、導かれたいと云う願いをもって出席をさせて頂ました。

当日、諸先生方からヨハネ四章一節から十七節、エペソ四章一節から三十二節まで等、いろいろ取りつぎを頂きましたが、その中で私は特にヨハネ四章十四節「しかし、私が与える水を飲む者はだれでも、決して渇くことがありません。わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。」

エペソ四章五節と六節「主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つです。すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのもののうちにおられるすべてのものの父なる神は一つです。」と云うみ言葉に導かれました。

また、グループの分かち合いの中で、長い信仰生活をされている方から、「昔、牧師先生から家族の為、周囲の人達の為に祈りつづけなさいと教えられ、当初はあまり意味もわからず祈っていましたが、それから四十年今でも続けています。そうすると祈りの中に導かれるものが確かにあります。それには感謝しています。」

また、エペソ四章二十九節の「悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい。」と云うみ言葉に対して「この通り、何十年の間、人に益を与えない言葉は慎もうとして、つとめて参りました。」と云うこの二つの話は、心に強く刻まれました。全くさりげなく話されておりましたが、信仰の強さ、信仰とはこういうものかとわからせて頂ました。

とても、恵み豊かな時を過ごすことができました。心より感謝します。

アシュラム開催にあたり、準備をし、また当日、ご奉仕下さった方々にお礼申し上げます。

第三十九回関西アシュラム報告

小林　勝

日本クリスチャンアシュラム五十周年記念として二〇〇五年十月九日から十日に開かれたアシュラムは参加者が当初の予定より少なくなって全参加者十七名で開催しました。

今回のアシュラムは、「開会の祈り」を清水潔先生、「開心の時」を土山牧羔先生が担当され、夕食後一回目の「祈りの細胞」が持たれました。一日目の最後に横山義孝先生が「福音の時」を持たれ、力強いおすすめの言葉に参加者全員アシュラムの良き交わりの中に入っていく事が出来ました。横山先生は関西アシュラムが久方ぶりに日本クリスチャンアシュラム五十周年記念にお招きした助言者でした。関西アシュラムは毎回委員の牧師が分担してご奉仕下さいますので、原則として助言者をお招きすることはありません。今回は連盟から半額の支援があり良き助言者をお招きしました。入浴後連鎖祈祷が引き続き持たれました。

「朝の祈り」も横山先生のご奉仕で、すがすがしいキャンプ場の木々の下で祈りのひとときを持ちえました。毎年この場所で鳥のさえずりを聞く自然の中での霊的なひとときは素晴らしいものです。朝食後「静聴と分かち合い」を担当の古河治先生が教会の葬儀の為参加できなくなり、代わって小島十二先生が担当なさいました。写真撮影を毎年ご奉仕くださる清水潔先生が担当され、今回は特に素晴らしい横山先生を囲んでの写真を撮って下さいました。二回目の「祈りの細胞」を三グループに分かれで行なわれ、第一グループ

の横山先生初め参加等の各先生担当でそれぞれのグループがお導き下さる先生との交わりの中で互いの共鳴と思いやりを深める心を主イエスの名において与えられました。「労作の時」を昨年と同様に佐野昌弘先生の指導の下でキャビンの清掃をいたしました。終了後昼食を戴きながら今回は様々な事情から参加者が少なかったけれどもその分細やかな愛に満ちた二日間であったとの感想が聞かれました。

午後の「充満の時」を平方美代子先生が担当されアシュラムでいただいた恵みを共に分かち合いながら感謝の献金をささげました。

これからも「主、共に在り」のアシュラムを続けて参りたいと願っています。

第四十回九州アシュラムの報告

岡山　敦彦

日本アシュラム五十周年記念と九州アシュラム四十周年記念集会が、二〇〇五年九月二五日と二六の両日、福岡黙想の家で行われました。助言者として小島十二師をお迎えすることができ心から感謝しています。師は、前週関東アシュラムで三日間の奉仕をされ、ご自分の教会の聖日礼拝を済ませて、すぐに九州まで駆けつけてくださいました。

今回は二十名の参加者でした。九州アシュラムも高齢化し、参加者も少なくなってきましたが、毎年アシュラムを楽しみに待っておられる方々がおられます。また今回は、韓国の若い二人の女性が参加され、とてもなごやかな雰囲気となりました。

二日間なので、ゆっくりはできませんが、皆さん既に顔なじみの方々がほとんどですので、すぐに親しくなり、主にある交わりを楽しむことができました。

小島師の長い信仰生活また牧会生活で経験された信仰談は私たちにとって大きな慰めまた励ましとなりました。心から感謝しています。

アシュラムの醍醐味は何と言っても、連鎖祈祷の時です。午後十時から翌朝の五時まで祈りが途切れることなく続けられます。また、それぞれが祈祷課題をノートに記し、そのために祈ります。主の前に静まってみことばを深く味わう。その時は、本当にアシュラムに参加できて良かったと感謝するときです。

充満の時は、各自がこのアシュラムでいただいた恵みを分かち合います。証しをお聞きしながら、私たちは主にあって一つと確信することができます。まさに聖霊が一人ひとりに充満するときです。

来年は九月一七日と一八日、黙想の家で行います。兄弟姉妹と再会できることを楽しみにしています。

第43回関東アシュラム参加者

▽**第三十七回城北アシュラム開かれる**

二月十一日（土）午前十時より午後四時四十五分迄、ホーリネス池の上教会で城北アシュラムが開催されました。十二教会から五十八名が参加し、開心、福音、充満の時等プログラムで良き交わりの時でした。次回詳報。

▽**第十三回東京新生アシュラム短報**

二月十八日（土）午後七時より十九日（日）午後三時まで、当教会アシュラムが持たれました。今回は特に新宿西教会の川村秀夫兄をゲスト立証者としてお迎えし、良き祈りの交わり、身体と心と霊の癒しの時を持つことが出来ました。川村兄によって、日本アシュラム五十周年の歴史と沿革をDVD集録によって鑑賞することが出来、約三十名の参加者に恵みが注がれました。感謝。

横山　義孝

▽前号で報告しました第四十三回の関東アシュラムの写真が間違っていましたので訂正いたします。

各地区の諸活動に祝福を祈りつつNo.143をお送りします。（Y.）

東京都目黒区中央町1の21の10
碑文谷教会気付
日本クリスチャン・アシュラム連盟
振替口座　東京〇一〇〇一一四五五八
理事長　大石嗣郎
編集人　横山義孝
定価　一部60円　〒80円